

世界に誇れる日本の芸術 山形のさくらんぼ



山形を代表する果物「さくらんぼ」。冬の間、木はじっとエネルギーを蓄え、農家はさまざまな工夫を凝らして、より良い実りに備えます。高品質のさくらんぼで知られる山辺町の多田農園をこのほど、東北芸術工科大学理事長で映画監督の根岸吉太郎さんが訪れ、多田耕太郎代表取締役と「さくらんぼ談議」で盛り上がりしました。

「芸術的」な多田農園のさくらんぼ



根岸 多田農園のさくらんぼを初めて味わったとき、「こんなにおいしいものがあるのか」と感動しました。その後、桐箱に入ったさくらんぼをいただいたのですが、箱を開けた瞬間、美しく輝く実が「毅然と」並んでいる様子に心を奪われました。多田農園のさくらんぼはまさに「芸術的」。見た目も味も、全てが素晴らしいたずまいを持っている。

多田 さくらんぼを作り始めた当初は「食べておいしい」ことだけを重視していました。あるお客さまに「贈り物なのだから、味がいいのは当然。それ以上の価値のある物でなければならない」との言葉を

いただいて以来、さまざまな課題を一つ一つクリアしながら現在に至っています。

根岸 お客さまがどういふものを求めているかをしっかりイメージし、それに向けた一つ一つのプロセスをきちんと構築しているんですね。

多田 さくらんぼは贈り物として、人と人をつなぐ大事な役割を果たしています。名前を聞いただけで誰でも分かり、多くの人が価値を認める「老舗の羊羹」のような存在を目標に、今後も取り組みます。

山形との縁を「桜桃」の言葉に込めて

根岸 「ヴィヨンの妻 ～桜桃とタンポポ～」を撮ったとき、山形とのつながりを何か入れたい、との思いもあって、タイトルに「桜桃」の言葉を入れたいと考えました。太宰治をしのぶ日を「桜桃忌」といい、脚本の田中陽造さんがストーリーのいい流れを作ってくれました。山形とのご縁のおかげで、作品の幅が広がったのだと思います。

多田 もし、先生が新たな作品を手掛けられる予定がおありでしたら、先生の作品のファンを自認する私にも何らかの形でお手伝いさせていただければと思います。



多田 耕太郎
株式会社多田農園 代表取締役

根岸 吉太郎氏
東北芸術工科大学 理事長

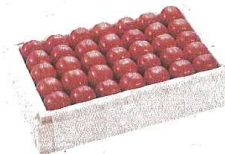
名声を次代に引き継ぐために

多田 次の時代を見据え、現在常務取締役を務めている安食政史君に、今後3~4年の間に代表権を持ってもらおうと考えています。これまで拡大路線を突っ走ってきましたが、際限ない拡大は現実には困難。「安食流」のかじ取りで、これまでにないインテリジェント農業を展開してほしいと思っています。

根岸 日本は今、どういう状況にあり、どこに向かっているのかを考えることが、企業経営には欠かせません。新しい感覚、いろいろな提案を取り入れることも大切です。私自身、そして大学に協力できることがあれば、ぜひともお声掛けいただければと思います。今年は秋に、4回目の「山形ピエンナーレ」が開催されます。さくらんぼの時期からは外れますが、「食」や「健康」と芸術と一緒に考えるような形にしたいと思っていますよ。



左から多田農園の安食政史常務取締役、根岸氏、多田



やまのへ多田耕太郎のさくらんぼ

多田農園

〒990-0300 山形県東村山郡山辺町元宮63-2

TEL.023-664-8302 FAX.023-664-8336

<http://www.tadanoen.com>

山形多田農園 検索